

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
静岡県清水区日の出町7番2号
TEL. 054-352-4146(代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～お知らせ～

- ・帆船「海王丸」御前崎港寄港 7月28日(金)～8月1日(火) 場所：御前崎港中央ふ頭
- ・第70回 清水みなと祭り 8月4日(金)～8月6日(日) 場所：清水区内各所
- ・御前崎みなと夏祭開催 8月5日(土) 場所：マリンパーク御前崎(御前崎市港6104-9)
- ・御前崎 清流丸外洋訓練・一般公開 8月26日(土) 場所：御前崎港中央ふ頭

おめでとうございます ～「港湾関係功労者等表彰式」～

7月20日(木)、清水マリントーミナルにて『平成29年度「海の日」式典』が開催され、港湾振興発展などに貢献された11人(団体含む)の功績をたたえ表彰等を行いました。受賞者は以下のとおりです。

中部地方整備局長表彰

○港湾振興発展

前 伊東市長 佃 弘巳 様

○永年勤続

有限会社 伊豆海洋 宮越 正美 様
りんかい日産建設静岡営業所長 石間 恵之 様

清水港湾事務所長表彰

○港湾建設功労(優良工事)

株式会社古川組 静岡支店 様
青木建設株式会社 様

○港湾建設功労(優良業務)

株式会社シオ政策経営研究所 様

○港湾建設功労(協力会社)

株式会社タカノ建業 様
株式会社新村組 様
有限会社平野潜水工業所 様

○港湾建設功労(優良工事技術者)

株式会社古川組 静岡支店 山口 康二 様

○港湾建設功労(優良業務技術者)

株式会社シオ政策経営研究所 藤田 順史 様
(順不同)



＜中部地方整備局長表彰 佃 弘巳 様＞



＜港湾関係功労者等表彰式 集合写真＞

狩野川連合総合水防演習・広域連携防災訓練 (サテライト会場：清水港日の出の頭)

5月14日(日)、狩野川河川流域及び清水港において、狩野川連合総合水防演習・広域連携防災訓練を実施しました。

この訓練は、過去に狩野川流域を襲った最大級の台風『狩野川台風』が接近するという想定のもと、狩野川流域の洪水被害、清水港における高潮被害に対し、関係機関が相互に連携した防災体制を確立することや、水防関係者の水防技能の向上を図ること目的としています。

サテライト会場である清水港では、台風の接近に伴い、最大風速50m/sを超える暴風の発生ならびに計画高潮位を上回る高潮の発生を想定して、以下の訓練を実施しました。

(1) 台風・高潮への事前の備え

台風は、発生から日本列島に移動して来るまでには、数日の期間があり、台風の襲来に備え、事前に対策を行なうことが、重要となります。

この為、コンテナ船へ積み卸しを行う大型機械のガントリークレーンをアンカーで固定、石炭・穀物や木材チップなどを船に積み卸しする大型の荷役機械「アンローダー」の転倒防止、さらに、木材集積場を囲うように擁壁を設置し、木材が海へ流出しないようにする対策訓練を実施しました。

また、市街地への浸水対策として日の出の頭入り口にある防潮扉の閉鎖の実働訓練も実施しました。

(2) 漂流者の捜索・救助活動

船舶やヘリコプターにより高潮や高波にさらわれた漂流者の捜索・救助活動を実施しました。

(3) 港湾機能の回復

被災した港湾施設の被害状況を把握し、緊急物資輸送船舶の着岸が可能かどうかを判定する為、海上・陸上からの調査に加え、中部地整港湾空港部の防災訓練としては初となる、無人 小型飛行機(ドローン)を活用した上空からの調査訓練を実施しました。

また、岸壁上に流木・古タイヤなど様々なガレキが打ち上げられ、港湾荷役作業に支障をきたすことから、ガレキの撤去、船舶航行の安全を確保するため、海上に流れた出した大量の流木等の浮遊物の回収、高潮・高波によりコンテナターミナルに置かれているコンテナが流出、海中に沈んだとの想定で回収する訓練を実施しました。

(4) 緊急支援物資の輸送

船舶から緊急支援物資を岸壁上に搬入するとともに、伊豆半島の道路網が寸断されているとの想定で、清水港から土肥港に向け、海上輸送を行う訓練も実施しました。



前日まで危ぶまれていた天候も、訓練当日には恵まれ、無事訓練は終了しました。本訓練の準備から実施にあたり、ご協力及びご参加頂きました皆様方には厚くお礼申し上げます。

協力：清水コンテナターミナル(株)、鈴与(株)、清水埠頭(株)、(一社)海洋調査協会・(一社)港湾技術コンサルタンツ協会・NPO 法人中部みなと防災ネット、(一社)日本埋立浚渫協会中部支部、(一社)日本海上起重技術協会中部支部、中部港湾空港建設協会連合会、全国浚渫業協会東海支部、(一社)静岡県トラック協会、エスパルスドリームフェリー(順不同)

大野国土交通大臣政務官 清水港・下田港視察

大野国土交通大臣政務官が6月23日（金）～25日（日）、中部横断自動車道、伊豆縦貫自動車道、清水港、下田港等を視察しました。

まず、日本平から、清水港の全景を望み、港内の多様な港湾機能や富士山に協調した港空間の景観形成を視察されました。

24日（土）クルーズ船が着岸する日の出地区では、鈴木静岡県交通基盤部長による国際クルーズ拠点形成計画に関する説明を受けました。

続いて、馬場清水港湾事務所長から現在行われている日の出岸壁改良工事について、係船柱の大型化によって得られる、世界最大級の22万GT級（最大全長362m）のクルーズ船に対応可能な係留機能強化や、背後スペースが利用可能となることによる、利便性や安全性の向上などの改良効果を、大型係船柱を間近に見ながら説明を受けました。

袖師地区に移動した後、CA（Controlled Atmosphere）コンテナによる農産品輸出の取組みの説明を港運会社 鈴与株式会社より受けました。CAコンテナはコンテナ内の酸素濃度を低下させることで、青果物の呼吸を押さえ、劣化、追熟を抑制するとともに温度を管理することで鮮度を維持することができます。すでに福岡県や福島県、茨城県などでCAコンテナを活用した輸送実験が行われています。

新興津地区では、清水コンテナターミナル株式会社からコンテナヤードの整備（冷蔵コンテナの電源整備）事業にかかる説明を受けました。さらにコンテナの積み下ろしをするガントリークレーンに登りガントリークレーンの大きさを体感するとともに、船舶の大型化に対応したガントリークレーンの更なる大型化の説明を受けました。

その後、人工海浜の進捗状況について地元自治会の方も交えて説明を受けました。

翌日25日（日）に下田港で整備中の防波堤を視察されました。まず、港湾業務艇しもだに乘船し、船内で馬場清水港湾事務所長より事業の概要や効果、現在の整備状況について説明を受けました。防波堤により波が安定している港内から港外へ船が出た際には、船の揺れが大きくなり、防波堤の効果を実感し、その効果に驚かされていました。

その後、船から降りて実際に防波堤上を歩いて視察され、防波堤を間近に見ながらその構造について説明を受けました。



＜日の出岸壁の改良事業説明の様子＞



＜CAコンテナによる取組説明の様子＞



＜新興津地区人工海浜説明の様子＞



＜下田港防波堤上の視察の様子＞

にっぽん丸熱海港に寄港

7月23日（日）、客船にっぽん丸（商船三井船）が、熱海港に寄港しました。10回目の寄港となる今回は、花火大会と連動し、船上から花火を鑑賞することができるクルーズ企画となりました。

入港時のセレモニーでは熱海芸妓による演劇が催されるなど、仙台から乗船した満員の乗客を歓迎しました。



＜熱海港に寄港するにっぽん丸＞

清水港フラワーフェスタに出展

5月21日(日)、清水マリンパークにおいて「清水港フラワーフェスタ2017」が開催されました。このフェアは、清水港開港100周年を機に「花と緑の海洋文化都市(ガーデンポートシティ)」が提唱され、その一環として清水港周辺の“賑わいの場”を創出し、地域経済の振興並びに文化の向上を図ることを目的とし毎年開催されてきています。バンド演奏やフラダンス、フラワーオークションが行われました。

当事務所も港の紹介ブースを出展し、中部管内“みなとオアシス”の紹介、御前崎港及び大井川港のイベント案内、防波堤の機能を体感する模型による実演やパンフレット配布などを行いました。



＜防波堤模型実演の様子＞

踊夏祭に出展

7月16日(日)、焼津市大井川地区の大井川港特設会場にて「第17回踊夏祭(おどらっかさい)」が開催されました。

踊夏祭は旧大井川町の時代から毎年開催されている一大イベントで、「おどらっかコンテスト」「フリーステージ」「市民総踊り」など踊りをメインとして開催されました。今年は市内外から55チームが集まり、踊りを披露しました。

踊りの他にも、みなとオアシス紹介ブース、第12回大井川港トライアスロン大会、三ケ日手筒花火なども行われました。

当日は2万5千人の来場者数となり、当事務所からも港の役割のパネル展示、港湾業務艇「ふじ」による大井川港の港内見学の支援を行いました。地元漁船と共同で約270名の方に港内を見学していただきました。



＜防波堤模型実演の様子＞

地元の小学生が「下田港防波堤」の今と昔を学習 ～下田市立浜崎小学校4年生が防波堤工事を見学～

7月14日(金)下田市立浜崎小学校の4年生12名が2学期より下田初の防波堤「武ガ浜波除堤」作りに骨身を削った郷土の偉人「今村伝四郎」についての授業を行うことから、下田港を見学しました。

港湾業務艇「しもだ」に乗り込み、「武ガ浜波除堤」を見学し、先人が地域の人々の生命と財産を守ろうと築き上げた歴史に触れました。

その後、下田港入り口で建設中の防波堤工事を見学し、国内最大級の起重機船「ふじ」の作業の説明を受けました。

児童たちは、防波堤の内と外の波の違い、起重機船の大きさに驚いていました。



＜港内見学の様子①＞



＜港内見学の様子②＞



＜集合写真＞

大型クルーズ船に対応した係船柱完成!!

昨年7月から清水港日の出岸壁で改良工事を行っていた係船柱（けいせんちゅう）が完成したことから、4月16日（日）に同岸壁において完成報告会を開催しました。

この係船柱は、1基あたりのけん引力が200tあり、同係船柱6基によって総トン数約20万tの超大型のクルーズ船が係留できる構造です。

従来は、岸壁から離れた陸側にある直柱（ちょくちゅう）にロープをつないで係留していたため、使用が制限されるエリアがありました。岸壁上に設置された係船柱により、スペースを広く使った歓迎イベントの開催やツアーバスのスムーズな移動などが可能になります。

報告会当日は、清水港初入港となる「ドーン・プリンセス（総トン数77,441t）」がこの係船柱を使用して着岸しました。

報告会には、望月衆議院議員、大口衆議院議員を始め、およそ50人の関係者が出席し、お祝いの言葉をいただきました。その後は、清水海洋少年団による手旗信号のセレモニー、テープカット、くす玉割りなど、今後のクルーズ船寄港を期待する雰囲気になりました。

清水港は、今年1月に国際クルーズ拠点に選定され、今後より多くのクルーズ船の寄港が見込まれます。7月10日（月）には年度内20回の寄港を予定している「スーパースター・ヴァーゴ」が初寄港しています。

今回完成した係船柱により、安全かつ円滑なクルーズ船の着岸がなされ、また、より多くの観光客に清水港の良さを感じていただけることを期待しています。



＜ドーン・プリンセス係留の様子＞



＜望月衆議院議員・
大口衆議院議員ご挨拶＞



＜テープカットの様子＞



＜スーパースター・ヴァーゴ 寄港の様子＞

「港湾技術を活用した海辺の環境創造プロジェクト」始動

清水港では、クルーズ船誘致による交流促進、ウォーターフロントを活かした観光地域づくり、海洋研究・産業の振興・人材育成など、海洋に関する様々な機能が集積する「海洋文化拠点」の形成を目指し、産学官が連携して様々な取り組みが進められています。

現在、清水港では、物流・観光の機能強化や防災力向上のための整備が進められていますが、こうした背景を踏まえて、清水港内で一般市民の方々が実際に海辺を見て、遊んで、学べる「体験の場」を創出するため、「港湾技術を活用した海辺の環境創造プロジェクト」を実施することとしました。

6月13日付けで協力団体を募集したところ、複数団体からの応募があり、選定の結果、以下の団体に本プロジェクトに協力いただくことになりました。

協力団体	実施内容
日建工学株式会社	アミノ酸コンクリートブロックを使った藻場の生物観察
株式会社不動テトラ	環境共生型ブロックの設置による環境創造と市民との共創
鈴与建設株式会社	ドローンをはじめとする港湾技術体験



＜環境創造プロジェクトイメージ＞

提案の一部について8月18日（金）の「夏休み親子見学会」で実施いたします。なお、今回の募集に際し、株式会社古川組から協力の申し出があり、この「夏休み親子見学会」にあわせて稚魚の放流体験も実施します。親子見学会の詳細はHPにてお知らせいたします。

【清水港湾事務所 HP】 <http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp/>

シリーズ「モノから見える清水港」⑦(全10回)

缶詰記念館と「最低賃金設定全国第一号記念碑」

フェルケール博物館の第2常設展示室の黒い扉を開けて屋外に出ると、羽目板造りの古風な建物が建っています。「缶詰記念館」と呼んでいますが、これは静岡の缶詰産業を紹介する施設であるとともに、“缶詰産業黎明期の社屋”という展示資料でもあります。

明治時代初期、日本に缶詰の製法が伝わると、まっ先にサケ・マス・カニなどの北洋漁業の産物が缶詰に加工されました。昭和時代にはこれらに加えて、静岡のマグロ・カツオなどの魚やみかん、台湾産パイナップル等の缶詰が国際的に販路を拡大していきました。一方、清水港の近代史を見ていくと、第一次世界大戦の収束とともに、インド・セイロン紅茶の輸出が再開されたため、第一位を占めていた緑茶の輸出量は次第に低迷していきました。これに対応するように、昭和4年(1929)に静岡県水産試験場でマグロの油漬け缶詰が開発され、翌年にはアメリカに輸出されて大変な好評を得ることになりました。

マグロのツナ缶詰が開発された昭和初期は世界的な金融恐慌の中にあり、昭和6年には満州事変が勃発して、日本は昭和20年の敗戦まで長い戦争に突入していきました。缶詰産業はこのような時勢に女性が生活していくための基盤となるよう考慮されていました。

館内の展示を見ていくと、さまざまなことに気づきます。昭和5年の社屋前の集合写真の大半は女性であること、マグロを同じ間隔に包丁で切ることができるように作られた木製の台、今では珍しくなった紙製ラベルの右端には白く「のりしろ」がついています。これらは、いずれの女性でも同じように仕事ができるように配慮されていたことを伝えてくれます。また、缶詰記念館の傍らには「最低賃金第一号記念碑」が設置されています。碑の裏面には「静岡県内の缶詰業者は昭和31年(1956)に全国で初めて、初任給に最低賃金を設定する協定を業者間で結び、同時に年齢別・経験年齢別の標準賃金を制定した。加えて、労働条件の改善が企業の発展をもたらすことを確信している。」と記念碑設置の意義が刻まれています。この協定は日本の「最低賃金法」制定に3年先んじる画期的なものでした。

缶詰産業創設の経緯を考慮し、この記念碑の前面には池上舜氏による「働く女子労働者の面影」のレリーフが飾られています。



缶詰記念館



清水食品(株)社屋前の全従業員



最低賃金全国第一号記念碑

※ このシリーズは「(仮題)フェルケール博物館」について寄稿によるもので、今回は連載7回目です。

椿原 靖弘(ちんばらやすひろ) 1962年 藤枝市生まれ、フェルケール博物館 学芸部長

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなと

0120-497-370

受付時間: 9時30分~12時、13時~17時(土・日、祝祭日は除く)

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは
何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

江口・坪倉 Tel. 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp